

令和7年度第2回さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会

日時：令和7年11月12日（水）

午前10時00分～午後12時00分

場所：議会棟第6委員会室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 オブザーバー（認知症希望大使）のご紹介

4 議 題

- （1）さいたま市認知症施策推進計画の進捗状況について
- （2）新しい認知症観の普及啓発について
- （3）その他

5 閉 会

【配布資料】

- ・ 次 第
- ・ 委員名簿
- ・ 資 料 1 さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会事務局説明資料
- ・ 資 料 2 さいたま市認知症施策推進計画の進捗状況
- ・ 参考資料 1 さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会設置要綱

【第1回で配布済みのため閲覧希望者のみ配布】

- ・ 参考資料 2 さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会運営要領・傍聴要領
- ・ 参考資料 3 さいたま市情報公開条例（抜粋）
- ・ 参考資料 4 さいたま市附属機関等の会議の公開に関する要綱

さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会 名簿

2025年5月16日現在

	氏名	所属等	所属役職
1	いしかわ かよ 石川 嘉世	株式会社 武蔵野銀行	地域サポート部 地域価値創造室 副グループ長
2	おうみ つばさ 近江 翼	埼玉大学 社会変革研究センター地域共創研究部門	教授
3	おおはし たろう 大橋 太郎	社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会	地域福祉課長
4	おがさわら ちはる 小笠原 千春	さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会	幹事
5	こうご ゆうき 向後 佑希	さいたま市薬剤師会	常務理事
6	こうさき まい子 神前 まい子	ピアサポーター	
7	こじま こうたろう 小島 康太郎	さいたま商工会議所	まちづくり支援課 課長
8	とだ いくみ 戸田 郁美	JR東日本大宮支社 浦和統括センター	副長
9	はなまた よふみ代 花俣 ふみ代	公益社団法人 認知症の人と家族の会 埼玉県支部	副代表理事 埼玉県支部代表
10	ますやま きよみ 益山 清美	地域包括支援センター 白鶴ホーム	認知症地域支援推進員
11	まつもと ゆみこ 松本 由美子	埼玉県・さいたま市若年性認知症サポートセンター	若年性認知症支援コーディネーター
12	まるき ゆういち 丸木 雄一	さいたま市認知症疾患医療センター（埼玉精神神経センター）	センター長
13	みたに まさと 三谷 雅人	大宮医師会（さいたま市4医師会連絡協議会）	副会長
14	やまだ はるえ 山田 晴江	公募委員	
15	よこた あきら 横田 明	さいたま市民生委員児童委員協議会	理事
16	わだ すぐる 和田 傑	さいたま市認知症希望大使	

（50音順・敬称略）

令和7年度 第2回

さいたま市

認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会

日 時:令和7年11月12日(水)

場 所:さいたま市役所 第6委員会室



さいたま市チームオレンジロゴマーク

議 題

- ・議題1

さいたま市認知症施策推進計画の進捗状況

- ・議題2

新しい認知症観の普及啓発について

議題1 さいたま市認知症施策推進計画の進捗状況

dementia

委員会スケジュール (令和7年度～令和9年度)

再 掲
(前回委員会資料)

- 今年度は、**新しい認知症観の普及啓発を中心とした意見交換の場**として、全2回を開催予定
- 次期さいたま市認知症施策推進計画改定に向けた意見聴取については、令和8年度を予定

スケジュール (予定)	計画期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度 (全2回)	現 行 計 画				●→ 第1回開催(7/18) ・ 委員会の趣旨と論点等		●→ 第2回開催 ・ 市計画の進捗状況						
令和8年度 (全3回)	見直し	●→ 第1回開催 ・ 計画骨子案					●→ 第2回開催 ・ 計画素案					●→ 第3回開催 ・ 計画成案	
令和9年度 (全2回)	次 期 計 画	●→ 第1回開催 ・ 未定					●→ 第2回開催 ・ 未定						

さいたま市認知症施策推進計画

(計画期間:令和6年度～令和8年度)

再 掲

(前回委員会資料)

- 認知症基本法では、認知症本人及び家族の意見を聴きながら市町村計画の策定が求められた(努力義務)
- 本市においては、法施行前である令和3年に策定、令和6年に改定し**現在2期目**

基本的な考え方

認知症の方の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現に向けて、認知症の予防から、重度の方への対応、その介護者への対応まで切れ目のない支援に取り組むとともに、**認知症の方が社会の一員として活躍ができる「共生」のまちづくりを進めます**

指 標

認知症サポーター養成者数 おれんじパートナー養成者数 認知症フレンドリー企業団体数

4つの基本施策

①認知症の人に関する正しい理解の増進等	②認知症予防に資する可能性のある活動の推進	③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人の支援・社会参加支援
<ul style="list-style-type: none">① 認知症サポーター養成講座等の推進② 「認知症ケアパス」作成③ 認知症の日及び月間における普及・啓発イベント等の開催	<ul style="list-style-type: none">① 介護予防に関する教室や講座の実施② 介護予防の地域づくりに向けた担い手の育成	<ul style="list-style-type: none">① 認知症疾患医療センター② 認知症初期集中支援チームの活用③ 医療従事者・介護従事者の認知症対応力の向上④ 認知症地域支援推進員の配置⑤ もの忘れ検診の推進⑥ 認知症対策推進事業⑦ 認知症情報共有バスの提供⑧ 認知症相談の実施⑨ 介護者が集い、相談できる場の確保⑩ 家族介護者の周知及び支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none">① チームオレンジの推進② 本人発信支援③ 認知症高齢者等に対する見守りの推進④ 若年性認知症支援コーディネーターの活動の拡充

計画の進捗状況

- 認知症サポーター養成者数は、養成者数の増加に鈍化が見られるものの、累計**10万人**以上を養成
- おれんじパートナー、認知症フレンドリー企業登録件数についても、**順調に増加**

指 標	目 標	実 績（令和7年3月31日時点）	
認知症サポーター養成者数	25,000人 (令和6年度～令和8年度の累計)	令和6年度	6,805人 (計画期間外を含む累計：100,819人)
		令和7年度	—
		令和8年度	—
おれんじパートナー養成者数	450人 (令和6年度～令和8年度の累計)	令和6年度	256人 (計画期間外を含む累計：840人)
		令和7年度	—
		令和8年度	—
認知症フレンドリー企業 登録件数	900件 (令和6年度～令和8年度の累計)	令和6年度	686件
		令和7年度	—
		令和8年度	—

議題2 新しい認知症観の普及啓発について

dementia

目次

1 本日の狙い

2 前回委員会の振り返り

3 本日の意見交換

① 本日の狙い

本日の狙い

- 前回委員会では、委員の各立場で現在、取り組んでいることを中心に意見交換を実施
- 本日は、「地域連携」、「環境整備」のテーマ毎に、「具体的な取組」、「実施方法」に関するアイデアについてご意見いただきたい

テーマ	ご意見いただきたいこと	観 点	
		取 組	実施方法
地域連携	認知症当事者や地域住民、企業・団体同士による地域交流を促進するために、どんな取組と実施方法が考えられるか	・前回委員会での意見を踏まえた具体的な取組 ・それ以外に考えられる取組	・認知症の人本人や家族が参画しやすい実施方法(手法や過程)
環境整備	認知症の人の生活環境を整備し暮らしやすくするには、どんな取組と実施方法が考えられるか		

いただきました意見は、市の認知症施策推進計画改定の際に、参考とさせていただきます

② 前回委員会の振り返り

新しい認知症観

再 掲
(前回委員会資料)

- 基本法の成立を契機に、**認知症の方が国の有識者会議等に参加**し、認知症施策の基本方針等をまとめた認知症施策推進基本計画が策定される
- 計画策定に合わせて、「**新しい認知症観**」の普及啓発が打ち出される

これまでの…

認知症になったら「何もわからなくなる」、「ふつうの生活を送れなくなる」というイメージ




新しい認知症観（今、これからの考え方）

認知症になっても、一人一人が個人として出来ること・やりたいことがあり、
住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし
続けることができる

今後、特にご協議いただきたいこと

再 掲
(前回委員会資料)

- 認知症基本法及び国の認知症施策推進基本計画の特徴
 - ・ **新しい認知症観**の普及啓発
 - ・ **企業等を含む、認知症の人の生活に関わる多様な主体**が連携・協働した取組



「**新しい認知症観**」を社会全体に広げていくために、行政のほか、
市民、企業、関係機関などが連携してどのような取組を進めていくべきか、
各お立場から、意見交換をお願いします

▶ 頂いたご意見を基に今後の取組のほか、次期認知症施策推進計画の反映を検討していきたい

前回委員会意見のまとめ

- 前回委員会の意見をテーマ毎に分類

テーマ	主な意見
情報発信	<ul style="list-style-type: none">・ 地域住民が主体的に、自治会などを対象に認知症サポーター養成講座を開催している。また、大人だけではなく、中学校や小学校にも出向き、認知症サポーター養成講座を開催し、校長先生などに評判となっている。・ 認知症について知っていただくことは重要であり、知ることによって身近なものになってくる。そのためにも市民公開講座やSNSなどを使って広く普及啓発をしていくべきである。・ 地域住民の方が開催している認知症サポーター養成講座にも、ぜひ認知症フレンドリーまちづくりセンターや若年性認知症サポートセンターに集う本人たちの声を入れることで、座学で得た知識だけでなく、新しい認知症観を落とすことができる。新しい認知症観の普及啓発にも繋がるのではないかな。・ 新しい認知症観を伝えようと一生懸命言葉で言っても伝わらないが、すぐ近くにいるだけで変わってくれるという経験もあったことから、情報や知識よりも実際に見て変わる、触れて変わることもある。

前回委員会意見のまとめ

- 前回委員会の意見をテーマ毎に分類

テーマ	主な意見
地域連携	<ul style="list-style-type: none">・新しい認知症観の普及啓発のため、認知症サポーター養成講座の開催は重要と考えます。ですが、地域包括支援センターだけでは、手が回らないことから、認知症サポーター養成講座のキャラバンメイト（講師）のチームオレンジを立ち上げ、講座の開催依頼が来た場合には、チームに講座の開催をやってもらっています。・近所の認知症の方を見守るため、近隣住民と情報交換をしながら支援方法を話し合っていました。その経験から、地域で認知症の方も参加できるカフェ活動を始め、活動の中では、認知症の男性が、自身の体験を前向きに語ったことで、参加者の理解が深まりました。・薬局の中には、健康サポートや地域連携を積極的に行う薬局もあります。薬局でも、認知症カフェや健康教室のチラシを掲示し、地域の情報を発信しています。薬局は病気に関することだけでなく、地域の情報発信拠点としても活用できると考えています。

前回委員会意見のまとめ

- 前回委員会の意見をテーマ毎に分類

テーマ	主な意見
環境整備	<ul style="list-style-type: none">・認知症であってもなくても、対応する人が一目でわかるようにビブスを着用するなど、配慮が必要なのではないかと感じた。銀行では、認知症の方に限らず、お客様が何かどんな些細な困りごとでも、誰聞いていいかわかるように、ロビー担当を1人配置している。・建物内の標識をわかりやすいカラーで作るなどのマニュアルを定めたり、従業員が認知症サポーター養成講座を受講することで、お客様へのサポート体制を整えていきたいと考えている。・薬局は薬の処方を通じて、前回から今回までのご様子の違いなどの変化を継続的に見ていくことができ、本当に多くの気づきを得られる場所として薬局が活用できるのではないかと考えます。

③ 本日の意見交換

意見交換の概要

- 前回委員会意見を元に分類した3テーマの内、
「**地域連携**」、「**環境整備**」をテーマに**委員同士による意見交換**を実施
- 1テーマあたり、**35分**程度の意見交換を想定

全体スケジュール		テーマ
10:30 ~ 11:05	(35分)	地域連携
休憩	(10分)	—
11:15 ~ 11:50	(35分)	環境整備
総 評	(5分)	—

各テーマの進め方

- テーマ毎に、「**概要説明** ⇒ **検討時間** ⇒ **意見発表** ⇒ **まとめ**」の流れで進行
- 委員の皆さまは、各テーマの問いに対して、**取組**と**実施方法**についてご意見ください
- お考えいただいた意見は、**1つの意見につき、付箋1枚** にお書きください

進 行	時 間	内 容
概要説明	5分	・ 事務局からテーマ毎に参考事例等を説明
検討時間	5分	・ 検討シートを活用し、問いに対しての意見を考える ・ 考えた意見を <u>1つの意見につき、付箋1枚</u> に書き出す（ 取組⇒緑色 / 実施方法⇒オレンジ色 ） ・ <u>書き出した意見から随時、掲示用ワークシートに貼り付け</u>
意見発表	20分	・ 付箋に書き出された意見について発表
まとめ	5分	—

検討時間

- 各テーマの問いに対して、次の観点を踏まえ、どんな**取組と実施方法**が考えられるか
お考えください

テーマ	ご意見いただきたいこと	観 点	
		取 組	実施方法
地域連携	認知症当事者や地域住民、企業・団体同士による地域交流を促進するために、どんな取組と実施方法が考えられるか	・前回委員会での意見を踏まえた具体的な取組 ・それ以外に考えられる取組	・認知症の人本人や家族が参画しやすい実施方法(手法や過程)
環境整備	認知症の人の生活環境を整備し暮らしやすくするには、どんな取組と実施方法が考えられるか		

検討シートと付箋のイメージ

▼ 検討シート

	問 い	前回委員会の発言	お考えいただきたい部分	
			検討事項① 取組	検討事項② 実施方法
地域連携	認知症当事者や地域住民、企業・団体同士による地域交流を促進するために、どんな取組と実施方法が考えられるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の開催を目的としたチームオレンジの立ち上げ ・認知症カフェ等を起点とした認知症の人本人も参画する地域交流 ・認知症サポーター養成講座等、認知症をテーマにした講座等の開催 ・職能団体等通じた認知症フレンドリー企業への登録促進 	■観点 ・前回委員会での意見を踏まえた具体的な取組 ・それ以外に考えられる取組	■観点 ・認知症の人本人や家族が参画しやすい実施方法(手法や過程)
			(記載例) ・地域住民、認知症の人本人等、誰でも参加可能な認知症カフェを地域で開催	(記載例) ・認知症の人本人も含む、参加者意見に基づいた活動内容の検討 ・企業団体による空きスペースの活用 ・企業団体の従業員の参加
			誰でも参加できる 認知症カフェ	企業の空きスペースの活用

テーマ：地域連携

テーマ：地域連携

問い

認知症当事者や地域住民、企業・団体同士による地域交流を促進するために、
どんな取組と実施方法が考えられるか。

▼ 検討シート

	問 い	前回委員会の発言	ご意見いただきたい部分	
			検討事項① 取組	検討事項② 実施方法
			■観点 ・前回委員会での意見を踏まえた具体的な取組 ・それ以外に考えられる取組	■観点 ・認知症の人本人や家族が参画しやすい実施方法(手法や過程)
地域連携	認知症当事者や地域住民、企業・団体同士による地域交流を促進するために、どんな取組と実施方法が考えられるか。	・認知症サポーター養成講座の開催を目的としたチームオレンジの立ち上げ ・認知症カフェ等を起点とした認知症の人本人も参画する地域交流 ・認知症サポーター養成講座等、認知症をテーマにした講座等の開催 ・職能団体等通じた認知症フレンドリー企業への登録促進	(記載例) ・地域住民、認知症の人本人等、誰でも参加可能な認知症カフェを地域で開催	(記載例) ・認知症の人本人も含む、参加者意見に基づいた活動内容の検討 ・企業団体による空きスペースの活用 ・企業団体の従業員の参加
			付箋は緑色を使用	付箋はオレンジ色を使用

参考事例：地域連携

教育機関と連携した多世代交流

- 認知症の人本人、地域住民、地域包括支援センター、大学など多様な主体が連携し、多世代交流の場を創出
- 催し等を通じて、認知症の有無に関わらず参加できる取組（認知症の人の社会参加）



▲ チームおれんじ目白のわ
(目白大学・地域包括支援センター白鶴ホーム)

地域と企業の交流拠点

- 企業内で認知症カフェ等を開催し、認知症の人本人や家族、地域住民等、誰でも集える場を創出
- 活動に従業員が参加し、企業が提供可能な活動場所やサービスを提供することで、地域連携を促進



▲ ウエルカフェ
(ウエルシア薬局株式会社)



▲ チームおれんじアロハ
(デイサービス・ハレオル ラナ)

テーマ：環境整備

テーマ：環境整備

問い

認知症の人の生活環境を整備し暮らしやすくするには、どんな取組と実施方法が考えられるか。

▼ 検討シート

	問 い	前回委員会の発言	検討事項① 取組	検討事項② 実施方法
			■観点 ・前回委員会での意見を踏まえた具体的な取組 ・それ以外に考えられる取組	■観点 ・認知症の人本人や家族が参画しやすい実施方法(手法や過程)
環境整備	認知症の人の生活環境を整備し暮らしやすくするには、どんな取組と実施方法が考えられるか。	・店舗窓口にビブスを着用した総合案内担当者の配置 ・建物内の案内表示のルール化 ・従業員向けの認知症サポーター養成講座の開催 ・薬局等での専門職による窓口対応時の症状の確認や変化の把握	(記載例) ・認知症の人が買い物をしやすいよう案内マップやスローレジを設置する 付箋は緑色を使用	(記載例) ・認知症の人本人と実際に店舗を巡りながら、改善点について確認していく 付箋はオレンジ色を使用

ご意見いただきたい部分

参考事例：環境整備

認知症にやさしい店舗づくり

- 認知症当事者と店舗内を巡りながら行う、**認知症当事者の声を基にした誰もが使いやすい店舗づくり**
- 認知症の人も地域で買い物を通じて、社会的交流などを継続し、生活の質を維持・向上できるよう**スローレジの設置や案内マップ**を整備



▲ 当事者との店舗巡り（東京都）

出典：令和6年度認知症バリアフリー情報交換会および交流会
（株式会社イトーヨーカ堂 × DAYS BLG！（はちおうじ））



▲ スローレジの設置（岩手県）

出典：サービス産業強化事業費補助金
〔認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業〕
認知症になってやさしいスーパー・プロジェクト最終報告書

従業員の認知症への理解向上

- **企業内の従業員を講師として養成**し、主体的に企業内で認知症サポーター養成講座を開催
- 認知症に関する取組について、所属する**従業員や会員へ情報発信**



▲ 従業員が講師を務める
認知症サポーター養成講座

（ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社浦和東営業統括センター）



▲ さいたま商工会議所会報誌への掲載

令和7年度 第2回 さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会

さいたま市認知症施策推進計画の進捗状況について (詳細版)

進捗状況

基本施策1 認知症の人に関する正しい理解の増進等

主な事業	令和6年度実績
① 認知症サポーター養成講座等の推進	<ul style="list-style-type: none">認知症サポーター養成者数 6,805人おれんじパートナー養成者数 256人
② 「認知症ケアパス」作成	<ul style="list-style-type: none">認知症ケアパス 8,000部 作成
③ 認知症の日及び月間における 普及・啓発イベント等の開催	<ul style="list-style-type: none">世界アルツハイマーデー記念講演会の開催(公益社団法人認知症の人と家族の会と共催)企業と連携した商業施設や地域イベントへのブース出展市役所本庁舎出入口に啓発ブースを出展

進捗状況

基本施策2 認知症予防に資する可能性のある活動の推進

主な事業	令和6年度実績
① 介護予防に関する 教室や講座の実施 【再掲】	<ul style="list-style-type: none">・ ますます元気教室参加者数 2,075人・ 健口教室参加者数 170人・ すこやか運動教室参加者数 907人
② 介護予防の地域づくりに向けた 担い手の育成 【再掲】	<ul style="list-style-type: none">・ いきいきサポーター養成者数 198人・ いきいきサポーター養成講座参加者が 講座内容について「とても満足」とした回答の割合 55%・ 通いの場参加者数 20,601人(うち、いきいき百歳体操参加者6,547人)

進捗状況

基本施策3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

主な事業	令和6年度実績
① 認知症疾患医療センター	・ 専門医療相談件数 2,902 件
② 認知症初期集中支援チームの活用	・ 認知症初期集中支援チームによる支援件数 54 件
③ 医療従事者・介護従事者の認知症対応力の向上	・ 介護系研修 6種類 を開催 (対象) 介護従事者、開設者、管理者、小規模多機能型サービス等計画作成担当者等 ・ 医療系研修 7種類 を開催 (対象) かかりつけ医、歯科医師、看護師、薬剤師、医療従事者等

進捗状況

基本施策3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

主な事業	令和6年度実績
④ 認知症地域支援推進員の配置	・ 認知症地域支援推進員の配置人数 34 人
⑤ もの忘れ検診の推進	・ もの忘れ検診受診者数 2,042 人
⑥ 認知症対策推進事業	・ 認知症対策方針検討会議の開催 ・ もの忘れ相談医研修の開催

進捗状況

基本施策3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

主な事業	令和6年度実績
⑦ 認知症情報共有パス (つながりゅう ささえ愛ノート)の提供	・ 認知症情報共有パス 配布件数 累計 204 件
⑧ 認知症相談の実施	・ 認知症相談延べ件数 131 件
⑨ 介護者が集い、相談できる場の確保 【再掲】	・ 介護者サロン、認知症カフェの開催回数 735 件 ・ 介護者カフェの開催箇所数 4 箇所
⑩ 家族介護者の周知及び支援体制の充実	・ 地域包括支援センター職員や行政職員等を対象としたケアラー研修の開催

進捗状況

基本施策4 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人の支援・社会参加支援

主な事業	令和6年度実績
① チームオレンジの推進	<ul style="list-style-type: none">・ チームおれんじ 累計 23チーム立ち上げ・ 認知症フレンドリー企業登録数 累計 686件
② 本人発信支援	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症希望大使を設置（2名の方を任命）
③ 認知症高齢者等に対する見守りの推進	<ul style="list-style-type: none">・ 徘徊SOS事前登録者数 78人・ 認知症見守りシール配布件数 51件
④ 若年性認知症支援コーディネーターの活動の拡充	<ul style="list-style-type: none">・ 新規相談件数 50件・ 延べ相談件数 718件

さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを推進するために設置するさいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、認知症の人にやさしい地域づくりが、認知症の人、家族、保健医療・介護・福祉関係者、学識経験者その他認知症の人とその家族の日常生活及び社会生活を支える関係者（以下「関係者」という。）の連携のもと推進されるよう、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 認知症初期集中支援チームの活動に関する事項
- (2) 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進に関する事項
- (3) 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供に関する事項
- (4) 若年性認知症の施策の強化に関する事項
- (5) 認知症の人の介護者への支援に関する事項
- (6) 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進に関する事項
- (7) 認知症の人やその家族の視点の重視に関する事項
- (8) 前各号に掲げるもののほか、認知症の人にやさしい地域づくりについて必要な事項

(委員)

第3条 委員会は、関係者の中から市長が委嘱する委員20名以内をもって組織する。

2 委員の任期は、3年とする。ただし、再任は妨げない。

3 委員が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の在任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを選出する。

2 会長は、会議を総括し、委員会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、必要に応じて会長が招集し、その議長となる。ただし、会長が選出されていないときは、市長が会議を招集する。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員会に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

3 会議は公開とする。ただし、必要があると認めるときは、委員の過半数の同意

により会議を非公開とすることができる。

(謝金の額)

第6条 委員が会議に出席したときは、謝金として1日につき、別表に定める額を支給する。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、福祉局長寿応援部いきいき長寿推進課に置く。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

2 この要綱の施行後、最初の委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、委嘱の日から令和4年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

区分	支給額
会長	8, 8 0 0 円
会長以外の委員	8, 2 0 0 円